

平成24年度 第3回栄養学教育FD／ICT活用研究委員会 議事概要

I. 日 時：平成24年7月14日（土）、15:10～18:30

II. 場 所：愛知学院大学・楠元キャンパス（薬学部1F 大会議室）

出席委員：武藤 志真子委員長、中川 靖枝委員、酒井 映子委員、石崎 由美子委員

事務局：井端 正臣事務局長、森下 幸平主幹

III. 議事

1. 委員長の指名により、記録担当者を選出。

2. 栄養学教員に期待される学識(前回の6/2に検討された内容)について

再度、文章の検討・修正が行われた。

最終的にまとまった文案は以下のとおり。

- ①健康で豊かな人生に栄養の側面から貢献できる栄養学教員としての責任感と倫理観を有すること。
- ②人間栄養学に関する先端の専門知識と実践力を有していること。
- ③国際的な視野に立って総合的・複眼的に思考できること。
- ④新しい研究課題の発見・課題解決に科学的根拠に基づいて積極的に関与できること。
- ⑤教員間、関係諸団体及び地域社会との連携をコーディネートできること。
- ⑥ICTなどの教育技法を駆使して、参加・対話型の教育ができること。

3. 教育改善モデル実現に求められる教育力について

各委員が作成した文案の説明がなされ、①学生の動機づけ、②自立的学習、③学生の意見の取り上げ、④社会に貢献できることを視点とした文案についての検討を進めることとした。

- ・栄養学教員としては、シラバスに記載してある内容をきっちりと教育していくことが大事である。という観点から、カリキュラムポリシーに合致した授業を実施できることが重要視される。
- ・ICTについては、実践型、参加型であり、発信型ではない。
- ・栄養マネジメントの重要性を教員自身もしっかり確認することが、大事である。
- ・栄養学領域及び関連領域の教員や関連団体と連携・協力して教育を進められるよう、ネットワークを構築することが求められるのではないか。
- ・大学内だけでなく外部評価を取り入れることにより、授業改善ができるのではないか。などの意見が出され、最終的に7項目にまとめられた。

4. 教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題について

以下のポイントで検討された。

(1) 教育力を実現するためのFD活動について

- ・授業内容とカリキュラムポリシーとの整合性及び検討は、継続的に行う。
- ・教養科目と専門科目の教員間で問題点を共有し、解決を図る。
- ・研究報告会に主体的に参加し、問題点を共有し、ブラッシュアップする。
- ・振り返り教育の指導については、専門家による研究会を実施する。

などの意見が出され、最終的に4項目にまとめられた。

(2) 大学としての課題について

- ・大学教員、関連団体などとの連携協力を得るための呼びかけ、制度の整備だけでなく、大学側からの財政的な支援が必要。
- ・大学側が積極的に学内外のFD活動に参加させるような理解が必要。
- ・ICT活用の教育を推進するためには、組織・環境を整える必要がある。
- ・世界を視野に入れた教育の質保証を行う必要があるのではないか。

などの意見が出され、最終的に4項目にまとめられた。

5. 今後のスケジュールについて

(1) 今後の検討課題

事務局より、栄養学教育における学士力の5つの到達目標について、どのような背景で掲げたかを次回の会議で文章にまとめる（A4、1ページ以内、20行、冊子の最低半ページ程度）ことの説明がなされた。発行する冊子には、当初記入されていた図を復活させて挿入するので、A4サイズ、4枚程度に刷り上がる。管理栄養士国家試験のための学士力ではなく、こんなところが問題点として出てくるといった導入について、ストーリーテリング（＝コンセプトや思いについて、それらを想起させる語り手の体験や身近な出来事をベースとし、物語を通して伝えることであり、効果的に聞き手の心に響かせやすくなる）風にまとめる。

今年度の残り2回の会議でその内容をまとめる。

(2) 次回の委員会

8月25日（土）、9月21日（金）、9月22日（土）の中で2回開催する予定。

以上